1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3171400611		
法人名	社会福祉法人 みのり福祉会		
事業所名	関金みのりグループホーム (1階 森山・2階 大山)		
所在地	鳥取県倉吉市関金町関金宿1429-2		
自己評価作成日	令和6年1月12日	評価結果市町村受理日	令和7年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.wam.go.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いなば社会福祉評価サービス		
所在地	鳥取県鳥取市湖山町東2丁目164番地		
訪問調査日	令和7年2月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念にあるように、個人の思いに寄り添いながら、一人の人としての尊厳を守り、安心して楽しみのある暮らしが出来るよう支援に努めています。また、今年度からは委員会活動にも力を入れており、リスクと尊厳のバランスがとれる職員を育成し、ご利用者様により良いケアが提供できるよう取り組んでいます。

コロナウイルスが5類に移行したことを受け、本年は保育園との交流や家族交流会、更生保護女性会さんをお招きしてのお茶会などさまざまな行事を行いました。特に家族交流会ではご利用者様と一緒にケーキを作っていたり、その後会食をしたことで「久しぶりにゆっくり一緒に時間を過ごすことが出来た」とご家族様、ご利用者様ともに大変喜んでいただきました。合わせて個別支援にも力を入れ、買い物外出や外食などの他紅葉外出や初詣など季節に合わせた外

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

本施設は、関金温泉地区の高台に位置し、隣接のケアハウスと協力関係を築きながら施設運営されている。グループホームの運営理念を元に、各ユニットごとに年間目標を掲げ、一人ひとりの気持ちを大切に、個々の持てる力を引き出せるよう、明るく開けた支援を目指しながら日々実践に努められている。本年度、委員会活動にも力を入れ、①生産性向上(整理整頓・サービス向上)委員会、②事故対策委員会、③身体拘束及び虐待防止委員会、④感染症対策および給食委員会の各委員会が法人全体の研修を受け、全職員が周知し、サービス向上に向けて取り組まれている。また、家族会の開催や季節に合わせたの外出支援、他施設との交流などの他、個々対応での支援に力を入れられ、利用者が楽しみにされている様子が伺えた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご利用者様が地域の中で安心して生活が送れるように、理念を分かり易く方針として表わし、常に目に触れるところに掲示することで共有している。	グループホーム理念を基に、各ユニット毎でさらに細かく具体的な活動方針を話し合い、年間目標を定め、共用スペースに提示されている。職員は、常に意識し、振り返りをされながら、理念の実践に努められている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の保育園との交流や、小学校の行事にでかけたり、町内のお祭りや文化祭に参加している。隣接しているケアハウスとも頻りに交流している。	町内会に加入され、町内会行事の文化祭、秋祭り(神輿行列)、とんど祭り等へ参加されている。関金保育園(コスモスの植栽)や西倉吉保育園(野菜の苗植え、収穫)との交流、地区小学校への行事や近隣のケアハウスのグラウンドゴルフ大会へも参加され、交流されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学校の絵本教室に参加し認知症について伝えている。新型コロナウイルスの拡大によって停止していた「ふれあい喫茶」についても再開できるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度民生委員の方や、市役所の方などに集まって頂き活動報告など行っている。そこで頂いた意見は施設に持ち帰り職員会にて報告、職員間で情報共有を図りサービス向上に取り組んでいる。	運営推進会議は、2ヶ月に1度開催され、利用者の状況、活動報告の他、日々の介護での気づき、トラブルを細かく報告し、ヒヤリハットや転倒、事故報告書等をし、質疑応答の上、助言やアドバイスを貰われている。そこでの意見は、職員会議にて報告され、全職員が共有し、サービス向上に繋げられている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	気軽に相談でき、都度適切な助言が得られている。地域包括の方にもサービス提供状況や困難事例などについても気軽に相談ができ改善への取り組みができています。	市町村担当者とは、運営推進会議の他、日頃から連絡をとりあわれている。利用者の介護度の変化に伴う医療連携についての相談をされ、助言を得られている。また、介護支援ボランティア事業、認知症理解のための絵本教室に出向かれる等、連携をとりながら、協力体制を築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	偶数月に身体拘束及び虐待防止委員会を開催し身体拘束廃止に向け取り組んでいる。年に2回身体拘束についての研修を行い理解を深めている。	年間研修計画に基づき、年2回、身体拘束についての研修が行われている。2ヶ月に1回の身体拘束及び虐待防止委員会では、日頃の業務からの職員の気づきや事例をもとに話し合い、研修内容を検討されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内外の研修にて知識を深め、ご利用者様の尊厳を大切にケアを行っている。新人職員に対してもマニュアルをもとに研修を行う他、日々の業務の中でも丁寧に伝えられるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今までに、成年後見制度や権利擁護を活用されたり、現在活用している利用者様がおられ理解はしている。職員会で権利擁護に関する研修を行うことで理解を深めており、ケアマネジャーを中心に活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	初回面接時や契約締結時は利用のしおりや、利用料、サービス内容、医療管理、費用等、重要事項及び契約書の説明と提供上必要な費用など説明して納得同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約締結時に説明して、玄関に意見箱を設置。普段でも、運営推進会議でも気軽に意見を言っただけの雰囲気作りにも努めている。また、毎年満足度調査を行い意見を募り、頂いた意見に関しては真摯に受け止め運営に反映させている。	玄関に意見箱が設置されている。年1回、利用者の家族に満足度調査を実施し、結果はホーム内に掲示の他、毎月の家族あてのお便りに同封し、報告されている。今年度(コロナ5類移行後)、家族会を開催し、日頃の利用者の様子を写したスライドショーや、ケーキ作りをされ、利用者、家族、職員が日頃出来ない話をされる等、有意義な時間を過ごされた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼時、ユニット会議、ミニカンファレンス、気づきでの対策などで意見交換は日常的に行っている。日々の業務でも業務担当者をきめ、責任をもって業務を遂行するためにも、職員会で意見を述べたり、提案を聞くようにしている。	朝の1階、2階合同のミーティングやミニカンファレンスにて、職員からの気づきや意見を業務日誌に記録し、対策について話し合い、運営に反映されている。また、ユニット会議や職員会議で職員からの積極的な意見や提案を受け、業務改善に繋がられている。年2回、施設長と職員の面談が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は行事をはじめ、通常時でも施設へ来て気軽に職員に話かけている。人事評価表を設けたり、労働時間、休憩時間、給与水準規定を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の力量に合わせた研修を提案し、オンライン研修などを活用して気軽に研修が受けれるよう努めている。日々の業務の中でもユニットリーダーを中心に指導し能力の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の管理者会議、法人内専門部会で交流し情報共有図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面接時には管理者とケアマネジャーで面接することが多く、ご利用者様ご本人のご要望とご家族様のご要望を相互的に受け止め、計画表を作成している。初期の段階では暫定とし、生活の中でご本人様に受容的に関わりながら信頼関係を築き計画の作成を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様の意向を尋ねながら少しずつ話を聞き出すようにしている。困られていること、不安に思われていることなどを面会時等を利用して会話をすることで関係づくりに努めている。その他にも電話などで定期的にご要望を伺うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に当施設でのサービス内容の説明をきちんと行い、他のサービスが必要と思われた時は速やかに家族、待機先、又は主治医へ相談して適切なサービス機関へ紹介する支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々ご利用者様と職員が家族としての思いで喜怒哀楽を共有しながら生活を共にしている。一人ひとりに担当者を決めてより関わりを持つことでよい関係へつなげている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様の立場を理解し、ご本人様のご様子などこまめにお伝えしながら、可能な限りご協力いただいている。カンファレンスや面会時には家族の時間を大切に頂ける空間を提供するとともに、ご家族様とお話をし思いをくみ取るようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	隣接しているケアハウスになじみの関係がある方が数名おられ、定期的に会ってお話する機会を設けている。その他外出行事の時にはなじみの場所を回ったりするなど支援している。	隣接のケアハウスに出向いてゲームに参加されたり、なじみの方が来訪される等、双方向での交流がある。年間行事のお花見外出での故郷訪問や家族との墓参り支援をされる他、知人との電話や年賀状作成等、なじみの関係の継続支援に努められている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士のなじみの関係や、逆に気が合わない関係など職員が把握しそれぞれが孤立せず、またトラブルにならないよう仲介しながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所で利用がなくなっても機会があるごとに入院先などへ訪問したり、御家族様と話したり、広報誌を郵送して関係を断ち切らないようにしている。必が要あれば相談にのり退院後の支援をお手伝いすることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員のペースに合わせるのではなく、その人の生活してこられた環境や状態などを把握してユニットの中で話し合い、ご本人様本位の個別生活支援へ向けている。	入所の際、本人・家族に話を聞き、生活履歴や好きな事、好きな物等を把握し、個々に添った生活環境を整える様、各ユニットで話し合い、支援されている。クラブ活動にも力を入れ、「クッキング」「生け花」「茶道」「菜園」クラブの活動を通じて、他施設との交流や楽しみ事が増え、利用者の日々の生活が豊かになる様、意欲的に取り組まれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にはすべて把握できないが、徐々に御家族様などからの情報で、日々の中に取り入れていき、馴染みの話し方や関わっておられた方々や、仕事などを伝えて落ちついて生活ができるよう支援へつなげていけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	御利用者様一人ひとりの言葉や些細な行動でも普段と違う様子がみられた時はユニット間で共有したり、24時間シートで思いや気持ちの変化を組みとり現状が把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一ヶ月の実行記録表からケアの方法や、新たな課題を見つけていきユニット会議などで意見を募り新たな介護計画に反映させるようにしている。	1ヶ月のケアの実行記録表にて、毎日の実行項目をチェックされている。その評価をもとにケアの方法や課題について、ユニット会議で話し合われ、6ヶ月に1回見直しされ、現状に即した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	担当者が毎月評価を記録している。現状に合わせたサービスが提供できるように実行記録表へ記録しミニカンファレンスで情報を共有して実践している。評価表の見直しを行い、ご本人様をもっと知ることで、サービスの質の向上に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様のその時々状況によって生まれるニーズに対して職員間で共有し様々な観点から検討を行い、柔軟に対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の美容院、理髪店との連携体制とれている。そのほかボランティアさんの受け入れや、インターンの受け入れを積極的に行い、ご利用者様一人一人が活気ある生活が出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設でのかかりつけ医があり、いつでも対応ができるように連携が取れているが、ご本人様・ご家族様の希望を最優先に受診支援している。病状や症状によっては専門の医療機関への受診を家族へ相談して了解のもと通院している。	利用者の希望に添って、適切な医療が受けられる様、かかりつけ医による受診を支援されている。受診は職員が同行し、その結果は毎月のお便りにて伝えられている。また、変化のあった利用者については、その都度電話にて報告し、安心して適切な医療を受けられるよう支援されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携にて心配なことがある時は訪問看護へ相談している(24時間対応)。緊急時の場合は直接Drへ相談している。その判断は「緊急時・急変時対応マニュアル」で勉強会をして日々自己学習をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	御家族様や病院へは治療最優先で病状の安定をお願いしている、1ヶ月を超えると見込まれる入院の場合について都度話し合っている。特に連携室のない医療機関とは直接面談をしてよい関係作りへ向けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度になられる方について、御家族様と話し合いを重ねながら望ましい方法を一緒に考え支援している。主治医との連携を前提に施設専用「看取りケアマニュアル」を作成し研修会を行い、ご本人様、ご家族様の希望に沿った支援が提供できるよう、チームで支援に取り組んでいる。	重度化や終末期については、契約時に利用者、利用者家族に説明され、承諾書類等を作成されている。看取りケアマニュアルを作成し、研修会を行い、主治医との連携が前提のもと、利用者、利用者家族の希望に添って、地域の関係者と共にチームで支援に取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年避難訓練実施時急変時や緊急時に備えて消防署で訓練を受けている。また施設においても緊急時マニュアルに沿って勉強会をして急変時に迅速に対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消火訓練、避難訓練を定期的に行っている。水害、土砂崩れとう自然災害についてもBCPを作成し、その計画表をもとに災害時職員がすぐに動けるよう研修も行っている。	年1回、消防署の立ち合いのもと、消火訓練、救助訓練を実施。また、毎月、利用者と共に訓練を1階(蒜山)、2階(大山)合同で行われている。なお、BCP(自然災害発生時における業務継続計画)を作成され、全職員がすぐ動けるような体制を整えられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	委員会活動の中で毎回不適切ケア・声掛けについての話し合いを行っている。研修の中でも都度尊厳やプライバシーについて話し適切な声掛けが出来るように働きかけている。	1年間のフロアー目標を1階・2階と掲げ、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応に努められている。また、接遇委員会で接遇マニュアルを用いての研修を受けられ、全職員は周知出来ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	馴染みの関係を作り、ご利用者様のご希望を組んだ支援を行い、一人ひとりの思いや希望を引き出せるよう支援している。受容を大切に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や、食事などご本人様のペースに合わせ支援している。日中、夜間を問わず、サロンで過ごしたい方はサロン、居室でゆっくりしたい方は居室で過ごしていただけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの洋服を着ていただいたり、髭剃りなどをこまめにおこない身だしなみに気をつけている。化粧はされない方がほとんどであり、特別の時は介助者が支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みを尋ねてメニューを考えている。個々に合わせた方法で野菜の下準備等をお願いしたり、皆で協力して食事作りに参加する日を設けている。また、配膳、下膳、食器洗いなど個々のできる事を支援している。	利用者の好みを聞きながら、各ユニット毎で職員が献立を立てられている。利用者一人ひとりに向き合いながら、野菜の下準備、配膳、食器洗い等の出来ることを支援されていた。また、利用者と一緒に食事を作る日を設け、食事が楽しみとなるような工夫をされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の形態は個人に合わせ準備し、なめらか食にも取り組んでいる。量についても一人ひとりの摂取量を把握し提供している。栄養量が足りない方には補助食品などを準備している。水分を好まれない方は、種類や形態(ゼリー状)を工夫することで、必要な水分が摂れるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後に行っている。状況に合わせて歯磨き、義歯洗浄、うがいなどの支援を行っている。また、必要に応じて歯科受診を行い口腔内衛生が保てるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間は尿とりパット内で排泄されている方も、日中はトイレで排泄して頂いている。個々の排泄パターンを把握して、尿意や便意のない方でも特別な状態でない限り、毎日時間を見ながらトイレ案内させて頂いている。	排泄チェック表を活用しながら、個々の排泄パターンを把握し声掛けをされている。夜間はおむつ使用の利用者も日中はトイレでの排泄が出来る様にパットの種類や排泄用品の工夫をされ、トイレでの排泄の自立に向けた支援をされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘については食材の工夫や飲水量確保、オリゴ糖の使用など個々に応じた対応を行っている。特別な状態にある方では主治医の指示のもと、処方の下剤を用いる方もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望があれば毎日でも入浴していただける。入浴拒否がある方には柔軟な対応とタイミングを上手く利用して入浴していただいている。	入浴については個浴にて週2回以上午前中に入られている。希望があれば毎日でも入浴は可能である。また、入浴困難な利用者については清拭で対応される等個々に添った支援をされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は一人ひとりのペースに合わせ居室で臥床される方、夜は遅くまでサロンで過ごされる方や遅くまでテレビを見られる方など、個人の状況に合わせ支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりのケースに常に直近の薬剤説明書をとつけていつでも確認することができるようにしている。リスクマネジメントから気づきを挙げていくと共に、チェック表を活用して誤薬防止に向けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる事や好きな事に着目し役割や日課が持てるよう支援したり、地域の文化祭に向けちぎり絵や塗り絵などの作品づくりに皆で取り組んでいる。その他これまでの趣味などを把握しそれぞれが楽しんでいただけるようなお茶会などの行事企画を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	何時でも戸外へ散歩やドライブに行けるよう支援している。ご家族様と連携を図り自宅外出などの支援も行っている。また、外食の希望があった際にはお店と連携をとり対応できるようにしている。	日中、施設周辺の散歩やホームの敷地内にある足湯をされたり、ドライブに出かけられている。また、受診のある利用者については、受診後に買い物や外食等の支援を利用者家族と相談されながら行われる等、支援に繋がられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば少額に限り所持してもらうこともあるが現在は対象者はおられない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば書いていただくようにはしている。年賀状は職員と一緒に書いて、ご家族様にお送りしている。電話も希望があればいつでも対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具など持参してもらっている。サロンの日差しが強い時レースカーテンで日差しを柔らかくしている。温度計、湿度計を確認して調整している。浴室内の採光は明るくなっている。戸外の景色も一望でき季節感が感じられるようにしている。廊下の壁に活動状況を掲示して季節感を感じていただくようにしている。	温度計、湿度計を確認しながら空調管理されている。玄関、廊下には四季折々の手作りの作品が飾られ、利用者と共に楽しまれていた。共用空間の窓からの日差しが強いときは、レースカーテンを使用され、戸外の景色も一望でき、居心地よく過ごせるように工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	サロンでは気の合った人同士で語り合っていたり、ただけのようにテーブルの位置を工夫している。居室のレイアウトもご本人様と一緒にいる、居心地のいい空間になるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に使いた家具や品物を持ってきていただくよう御家族様へ伝え、できる限り居心地のよい環境作りに向けている。	居室は、エアコン、クローゼット、洗面台、ベッドが設置されている。また、家族の協力を得ながら、使い慣れた家具やTV、布団等を持参し、利用者が居心地よく過ごせるように工夫されていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には両側に手すりが取り付けられてあり、杖歩行や、老人車歩行を含め安全に歩くことができる。廊下は車椅子を自力で操作できるような広さになっている。一人ひとりの身体機能や状態に合わせてベッドの種類など工夫している。		